

横浜市立瀬谷小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

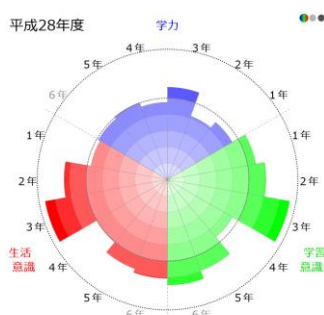
- (1) 「思考の縦糸と知識の横糸を紡いで言葉が生まれることを楽しむ国語学習」を通して育てる研究活動は、授業を中心として深めていく。教員の研究・研修体制を強化する。
- (2) 経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもへの対応へ全職員で指導体制を構築している。
- (4) 子どもたちの一日の家庭の勉強時間をはじめ、授業に積極的に参加する意欲、学習への興味関心等は、市全体の平均よりも上回り、学校全体で学び方に対する一貫した指導体制を整えている。
- (5) 家庭学習や地域の特徴を活用した学習を必要に応じて取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。

2 中期学校経営方針 「確かな学力」達成目標

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

○一人ひとりの子どもが、学び合いの中から互いの良さや可能性を感じ、「分かる」「できる」「深まる」「もっとやりたくなる」を目指し、基礎基本の定着を図ります。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

昨年度から今年度にかけて、全体的には、学習意識、生活意識が概ね市の平均よりも高く、学びに向かう意欲が高まっていることが分かる。一方で、学力は概ね横浜市の平均的な水準であるが、同じ学年の児童の中でも学力に差が見られ、どの学年にも学力層の低い児童が一定数いることから、より様々な学力の児童に合わせた授業改善が求められている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：文章や相手の話から目的に応じた情報を読み取ったり、それを意識して書いたりする技能が課題
- 算数科：技能については、各学年による課題が残る。数学的思考の観点では全ての学年で授業改善が必要。
- 社会科：平均的な学力を発揮しているが、グラフや地図から、必要な情報を読み取る技能に課題が残る。
- 理科：平均的な学力を発揮しているが、実験や観察した内容から考察する力に課題が残る。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

瀬谷小の学力層は横浜市と比較し、ほぼ同じか、または学年や教科によってやや上回る項目と、やや下回る項目があることがわかるが、経年変化を追って資料を見ていくと、23年度より学習成果も、生活・学習の意識も1年ごとに着実な高まりが見られた。また、平成28年度と比較すると全体的には、より学年差が激しくなっていることが分かる。教科については、学習方法の指導や学習規律の維持が徹底されている。教科指導や研究・研修への意識が高い。近年、家庭学習指導や漢字の継続指導等に重きをおいた学習習慣の定着を図るなど学習支援への取組に力を入れてきている。そのことは、児童質問紙の「塾に行っている」児童が、市のポイントより6ポイント低く、「家で勉強時間」が1時間（塾を除く）以上の児童が市より13ポイント高いことから、成果を感じている。

しかし、より学習効果を上げるための個に応じた指導は必要である。「ノート書き方」「学校の勉強は分かりやすいですか。」については、市の平均を上回る学年が増えてきているが、市の平均を下回っている学年もあった。また、学力層で見ると、ほとんどの学年がほぼ市の平均に近い割合なのに対して、学習の定着が十分な児童と、そうでない児童との差が大きくなっている学年もあった。このことから考えても、個に応じた指導の必要性がより一層感じられ、授業改善が求められる。重点的に指導してきた「自分の考えを話すこと」は、全学年で市の平均を大きく上回っており、ここ数年の本校の重点的取組みの指導の成果と考える。

4 平成30年度の目標と具体的方策

平成30年度 目標

**言語活動を位置付けた表現する場や相互交流を通じた成長の実感のある授業
学び合いの中で、「分かる」「できる」「深まる」「もっとやりたくなる」と子どもが感じられる授業の実現**

(1) 学校組織としての共通の取組

○ **自分の課題と相手意識を大切に学習活動の充実**

学習の課題（問題）を意識し異学年交流のシステムを利用し、「だれのために、何のために」学習をするのかといった目的意識・相手意識のある活動を取り入れた授業をつくる。

○ **言語活動の充実**

授業の中に言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を必ず一つ以上位置付け、自分の考えを表現、交流し、児童自身ができるようになったことを振り返って実感できる授業を行う。

○ **相手意識をもった言語活動の充実**

(※昨年度版です。内容を各学年で更新してください。)

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書いたり話したりするなど表現活動を大切に、どの児童もできた喜びを味わえるようにする。
- 学級活動等で疑問な点を尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話し、友達との関わりの楽しさを実感できるようにする。

2 学年

- 国語科等で文章を書いたり話したりする際に自分の経験や体験をもとにすることで、どの児童も課題を明確にして表現活動が行えるようにする。
- 学級活動等を通して、自分の思いを素直に表現したり、実践したりすることで自分自身ができることを実感できるようにする。

3 学年

- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合う。
- 比べたり、順序を付けたりして考える学習を計画的に行う。

4 学年

- 根拠を明らかにして自分の考えを説明することを大切に。どの教科でも記録、報告する文章を書くなどの表現活動や話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の考えをよく聞き共通点や違いを意識したり相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合う。
- 既習事項や生活経験と関連付けたりして考える学習を計画的に行う。

5 学年

- 目的意識・相手意識をもった学習活動を通して、説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面と自らの学びを振り返り、できるようになったことを実感できる場面を位置付ける。
- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。相手の話を聞き、自分の考えや経験と照らし合わせながら話し合う。

6 学年

- 下級生や全校を対象にした相手意識をもたせ、教科等の学習で今まで身に付けた様々な表現する力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、効果的に話し合いをする場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを行う。

個別支援学級

- 個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を行事・学習・日常生活の中で設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし必要な取組を行うようにする。
- 子どもの実態に合った情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。 s